

会 議 録

嘉手納町教育委員会

1. 会議の種類：平成29年度 第11回（定例会）
2. 期 日：平成30年1月25日（木） 午前10時00分～午前10時52分
3. 会 議 場：庁議室

4. 会議に出欠した教育委員

職 名	氏 名	出席	欠席	備 考
教 育 長	比 嘉 秀 勝	○		
教育長職務代理者	奥間 千津子	○		
教 育 委 員	宮 里 啓	○		
教 育 委 員	眞 壁 節 子	○		

5. 職務上会議に出席した職員

教育総務課長 金城 睦和
教育指導課長 浦崎 直哉
社会教育課長 上地 康夫
中央公民館長 新垣 美佐
教育総務係長 我那覇 弥生

（公開）

教 育 長：ただいまから、平成29年度第11回定例教育委員会会議を開会します。はじめに、会議規則第6条に基づき非公開事項についてお諮りします。本日の協議題等において、非公開事項はありませんので、すべて公開としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

全 委 員：異議なし。

教 育 長：異議なしと認めます。それでは本日の会議はすべて公開とします。ただし、公開とされた議事進行中に、新たに非公開が妥当とされる審議事項が出された場合には、改めて非公開の発議をお願いします。続いて会議規則第15条に基づき、本日の会議の進行についてお諮りします。本日は議案の提出がありませんので、始めに教育長諸般の報告、次に提案があればその他の事項の

順に進めたいと思いますが、ご異議ございませんか。

全 委 員：異議なし。

教 育 長：異議なしと認めます。会議の進行について決定しましたので、これから会議をはじめます。

6. 教育長諸般の報告

教 育 長：まずは教育長諸般の報告を行います。お手元の報告書をご覧ください。（※資料参照）以上、諸般の報告といたします。委員から何かありませんか。

委 員：嘉手納っ子発表会は、スタートが1年生からでしたが、いろいろなパートに分かれての演技は、先生方が時間を掛けて子ども達のしたいことを皆で話し合って選曲したのではと思いました。温かみや先生方と子ども達との触れ合いをととても感じました。衣装も凝っていて、子ども達がとても喜んでみんな生き生きと輝いていたのが印象に残って、1年生と思えないほど逞しく大きく見えました。狭い階段上で、笑顔でリズムを取りながらステップを取っていて、この中からダンスの優れた子達が出てくるのではと楽しみに感じました。6年生が1番最後で、授業の中で詩や俳句等をたくさん暗記していることに感心しましたが、毎年同じ感じの出し物で、保護者の中からは「こういうものは発表会ではなく、他の時間を組んで欲しい。」という声がありました。やはり保護者は1年生からの流れで劇やその他の出し物を期待する方も多いのではと思いました。観客の人数が少しずつ減って、6年生の番にはかなり少ないので、命に関するテーマ等を取り上げた劇を見せる場があっても良いのではと思います。

委 員：学推報告についてです。子どもは、生まれた時は健康であればと思いますが、スポーツは出来るか、勉強は出来るか、人より大きい・小さいと、子どもの成長を気にするのが親です。中学・高校になると進学・進路に重きを置きます。そう考えると、あの場で静かに聞いている風に見えた反面、小学生の保護者はそれほど興味がないのではと思います。自分の子の出番のビデオは撮りますが、学力等は全く気にしていないという風に見えます。中学校、高校に入学してからでは遅いというのであれば、現状報告はもちろんです、「平成30年度はこうなります。」、「高校・大学受験、世の中はこうなります。」と、将来の話の中での連続性のようなものを小・中学校でも話していかないといけないと思います。「次はこうなる。」、「あなた達の子どもが大学受験の頃にはこうなる。」ということ、せつかく保護者が集まっていられっしやる中で「受験改革って何だろう。」、「この子達が中学校に入る頃にはどう変わるんだろう。」と聞き耳を立てて貰うような発表が教育委員会からあ

ってもいいのかなと思いました。

教育長職務代理人：学推発表会におきましては、父兄が少ないのが残念でした。大規模な嘉手納小学校の事情だとは思いますが、1年生の父母しか聞いていないのではないかと思います。体育館の中央に雛壇を設置する工夫をする等、何か出来ないかと思いました。教育長がおっしゃったように、秋田交流は、学力の高い秋田県に学ぶのが目的ですので、教師も児童もやはりどこがどう違っていたのか、こういう風にしたい、私はこういう風にやっていくというのが欲しいと感じました。児童に発表させる場合には、視点を与えてはどうかと思います。秋田に行く前から視点を持たせることにより、発表につながっていくという感じを受けました。発表会の良さはたくさんあり、低学年はリズムが多かったですが、難しいステップをしっかりと踏んでいました。私の時代は、低学年にいかにステップの踏み方を教えるか、特に男の子は苦労しましたが、現代はテレビの影響等もあるのか、どんなステップもしっかり踏めるのだと感心しました。1年生の出し物には縄跳びや側転等もあり、そういう思い切った工夫は想像性があると感じました。高学年にいくに従って群読が多い感じがしますが、先ほどもありましたように、群読とは何であるか、発表会ですので、父兄に訴える表現を伴わないといけないと思います。こんなに多くの知識を学んでいるわけですから、その知識は中学・高校にいても生かせると思いますので、そういった演出の工夫が欲しかったという印象を受けました。そうすることで嘉手納っ子の頑張りがもっと見えてくるのではと思いました。5年生の合唱では、美しいハーモニーにとっても感動しました。私は専科のいない学校が多かったので、やはり専科が、技能面ではとても必要だと感じました。子ども達が自信を持って自分の役割をしっかりと意識して表現していたことに感動しました。

教育長：ありがとうございます。機会をとらえて学校に伝えたいと思います。他にありませんか。

教育長職務代理人：それから、中頭地区教育委員会協議会の講演会ですが、琉大生は、商品のバーコードをスマホで照らすと母国語が出てくるというアプリを作って起業したり、高専では、人間が乗るロボットを県外の方が1千万で買うという話になったり、昭和薬科大の平和学習を世界に発信できるようにJTAがバックアップする等、企業の後押しと学生を講師の宮里先生がコーディネートされているとのことで、沖縄の学生・若者がこんなに起業しているのだと感動しました。学校でもキャリア教育を進めているわけですが、「最も基礎になるものは何ですか。」と会場から質問があり、「五感を大事にする教育を進めること。」とありました。学校でも、この先生を講師として呼びし、ぜひ聞かせてあげたいと思った講演会でした。

委員：この先生は、みらいファンド沖縄の方です。1月31日の日経新聞では、『授業や部活の費用募る／学校もネットで資金調達』とクラウドファンディングの話が掲載されています。先日秋田に行かせて頂いた時も、次の目標は「今やっていることをクラウドファンディングで集めてやっていこう。」ということで、大人が準備してやるのではなく、小学校・中学校の子ども達がクラウドファンディングと一緒に立ち上げて、自分たちの夢のために資金調達をしようということでした。総合学習の中で色々取り上げられていて、離島であれば、自分たちの遠征費を捻出するためのクラウドファンディングであったり、企業と連携してお菓子のパッケージや地元のお菓子を作ったり等の流れがあつての、宮里先生のみらいファンド沖縄があるのだと思います。この趨勢というのは変わらず、世界中で当たり前起きていて、今までアイデアはあっても担保が無い等の理由で、銀行から融資を受けられなくて何もできなかった人達が、自分の情報を発信していった時宜を得ています。これが世の中の動きであれば、沖縄は模合もありますし、資金造成ではすぐ趣意書を作って各所を回り寄付金を集めることが出来るので、その企画力を高めて、「大会に行くから」ではなく「こういう事がしたいから」ということで、夢を実現するためにどうしても必要な資金を募ることが出来ます。自己表現が上手くなければ、お金は出してもらえませんが、今後、世の中がそうなるのであれば、町内の小学校や中学校で、総合学習の時間等を使って自己表現のトレーニングや活路を見出す方策を子ども達に感じて貰えるようにして頂ければと思います。

教育長職務代理人：以前、福井大学の先生の本で、学校現場における子ども達の気づきをいかに育んでいくか、関わりの中で想像性を小さい頃から育んでいく教育を位置づけて初めて、企業を起こせるようになるのではないかということをととても感じたので、あの本をもう1度読み返す必要があると思いました。

教育長：国立高専の人が乗るロボットは、映画のアバターと同じような作りで、公園での実験の際には、最初はロボットが歩いていることに興味津々で子ども達が集まってきたけれども、人が乗っていることに驚いて逃げていく様子を収めた動画も見せていました。このロボットを1体1千万円で買いたいということで、その資金が入れば更に精巧なものを研究できます。また、平和学習では、平和公園の中で主観的な内容ばかりの話だと、「なぜ今時こんな話なのか。」という中高生の声を大学生が聞き、こういう平和学習ではなく、ディスカッションして、平和をどう構築するか、平和でない国と比較して自分ならどうするかという意見交換を世界中どこでも出来るようなものを作り、世界中で沖縄の平和学習が出来るようなアプリを開発し、会社を立ち上げています。私はそれに賛成して、ぜひ頑張ってくれるよう言いました。私達は

そういう子ども達につなぐために、小学校・中学校でどういう教育に気を付けなければ良いか宮里先生に質問したら、「幼少の頃から五感を大事にしてあげてください。」とのことでした。先ほどの嘉手納小学校の発表会に戻りますが、教育指導課長からは何か意見はありませんか。

教育指導課長：教育委員の皆さんのお話を聞いて、同じ思いをしたところがございます。各学校、実践報告会だけを単独で持とうと思っても人が集まらない。集まるためにどう工夫するかということで、授業参観日とセットにしたり、小学校は学習発表会とセットにしたりしてやっています。屋良・嘉手納両方見ましたが、説明している時に、保護者はどういう風になっているのか見てみたら、静かにしてはいますが、体が動いていたり、下を向いていたりして、聞いていないのだと感じました。聞かせるための工夫というのは、保護者を対象にした内容にしなくてはならないと思います。私の前任校である山内小学校は、球陽中学校・高校に1番近い小学校ということで、学校づくりはこうしていこうという思いを強く持っていたわけです。中学校の校長と一緒にあって、山内中学校から20～30名の生徒を球陽高校に入れたいね、じゃあどんな風にして学校を作っていくかということで色々考えて、小学校ではこんなことをやって、中学校ではこんなことをやるという話をしました。私は、実践推進報告会では学推担当が発表するのではなく、校長が発表するべきだと思います。学力向上を通して、どんな学校づくりをしていきたいかという校長の思いを告げる場でないといけないと思います。そうすれば、保護者も静かに静止してしっかり聞いてくれると思いますので、その時に協力をお願いすれば、しっかり落ちていくのかなと思います。そういった工夫が必要だと感じました。そういったことで、やはり話の内容としては、「今、世の中はこんな風な動きになっていて、今からはこういう子ども達が求められています。そのために教育はこういう動きになっていますよ。」ということ、幼稚園の時から話をしていけないと遅い時代にきています。そういった意味では、例えば大学入試制度が大きく変わります。その時に内申書、調査書というのがありますが、ボランティアをどれくらい経験してきたかということが評価されます。それから先週県の話を書きましたが、高校入試制度が変わり、推薦入試制度が無くなります。学校長が推薦して上げていくのではなく、自分からこの学校に自薦でやっていくということになりますので、自分の良さが何かということを感じて、何に向いているかということ、高校に入る段階で決めていかないといけないわけです。そのためには小学校で何をしていくということ、しっかり施策の中で位置づけて計画的に作っていけないと、今からの子ども達は大変な時代に差し掛かってくると思います。そして指導主事にも話しましたが、「講評というのは評価を講じることなので、学校が取り

組んでいることについて評価をしてあげなさい、価値付けをしてあげなさい、その学校の良さは何だったのかということを保護者に伝えていくということが大事だよ。」ということで、そういう内容に変えなさいと伝えました。内容を聞いてみると、担当の話と重複していたり、全国学力調査で出てきた課題を指摘して「ご協力をお願いします。」とお願いばかりの講評になっていて、そうではないということで指導主事にも話しています。それから先ほどありました学習発表会についても、保護者の中にはまだ学芸会と学習発表会の違いが区別できない方もいらっしゃるのではないかと思います。学習発表会全体を通して聞いてみると、少しテーマ性が弱かった気がします。1年生はこういうテーマでこういうことをやっている、6年生はこういうことをやっているということがありますが、それが弱いのかなと思います。屋良小学校では、総合学習の発表を兼ねてその成果を発表するという形で、しっかりテーマを持ってその学年でやっていました。その伝え方としては、音声だけの情報だけではなかなか入っていきませんので、視覚情報、プレゼンテーションをしながら一緒にやっていくことが出来たらもっと良かったのではないかと思います。そして、最後のトリを務めるのは6年生ですので、音読だけでは少し物足りないと思いますし、あれは群読にもなっていなかったと思います。本当は群読と言うのは、リズムやその楽しさがいっぱいあって、やっている子ども達も楽しいと思いますが、それがありませんでした。そしてまた、表現力を付けた朗読までつなげた発表があったら、小学校6年生までにはそこまで出来ると思いますので、良かったと思います。これはもっと良くなるためにはこうしたら良かったという話なのですが、今、先生方一人一人にカリキュラムマネジメントという言葉があります。学習発表会が1月にあるのであれば、4月からどういう取組みをしていって、どういう発表をしていこうかということを考える時間があったと思います。その中で普段からやっていることを成果としてまとめれば良くて、直前になって何かやるための準備をするのではなく、何か月間掛けてきた成果を発表するという見通しと取組みをマッチングさせたら、もっともっと良かったと思います。そういったことを学校には助言していきたいと思います。

教 育 長：ありがとうございます。教育総務課長から感想をお願いします。

教育総務課長：屋良と嘉手納を両方見ての感想ですが、嘉手納小学校の体育館が新しくなり、明るすぎて映像がちゃんと映るか心配もしましたが、カーテンもあり良かったと思います。内容は、屋良小学校の方が見ていて楽しい感じがしました。屋良小は6年生になると平和学習の劇が恒例になっていますが、嘉手納小は今回初めて見ましたが、音読や群読が6年生のテーマになっているのかと思います。あれだけでは物足りないと感じました。1番良かったのはやはり

1年生のダンスで、見ているとこれから始まるんだ、徐々に楽しくなっていくのかなという感じがしました。

教 育 長：ありがとうございました。次は中学校の実践発表会もございますので、また皆で参加して支援出来たらと思います。これで諸般の報告を閉じたいと思います。その他事項の提案はありませんか。

7. その他

①文部科学省優秀教員表彰について

教 育 長：説明をお願いします。

教育指導課長：1月15日に文部科学省の優秀教員表彰式が東京大学安田講堂でありました。その中で、嘉手納中学校の我如古悟教諭が表彰されております。表彰の理由としましては、長年の部活指導の功績という形ですが、部活動のみならず、人間教育も大変充実させてくれる教師として認められたということで、沖縄県から数名の中に選ばれ、国で表彰されております。

教 育 長：その表敬が明日、町長、教育長も含めて報告があります。町から文部科学大臣表彰が出るということは、子ども達の自信にもつなげていけたらと思います。

②社会教育課主管事業について

教 育 長：説明をお願いします。

社会教育課長：大山町との児童交流が30年を迎えまして、子ども達も30年目に当たったという自覚も含めながら、大山町でエイサーも披露しました。エイサーを指導して下さる伊敷猛さんも、毎年子ども達を褒めてくれていますが、今回は特に素晴らしい、練習も含めて、本番では感動を与えるくらいの披露をしていました。本日は朝からスキー体験をしており、明日は大雪で無ければ帰ってくる予定ですので、解散式で成長した子ども達の姿を見て、褒めてやって下さい。それから、来週2月2日～4日にかけて、嘉手納町文化協会によります文化祭がかでな文化センターで開催されます。2日午前10時からオープニングセレモニー、4日午後4時から舞台が催されますので、お時間の許す限り宜しく願いいたします。最後に、2月から恒例の横浜DeNAベイスターズのキャンプが始まります。2月1日～26日までの間におきましては、子ども達の野球教室、選手を中学校に派遣して給食を一緒に食べて頂くという企画を予定しております。日程がどうなるかわかりませんが、ア

アプローチしておりますので、実現すれば子ども達にも良い効果が出てくるかと期待しております。以上です。

教 育 長：ありがとうございます。

③中央公民館まつりについて

教 育 長：説明をお願いします。

中央公民館長：2月18日日曜日に、嘉手納町中央公民館まつりを予定しております。教育委員の皆様にもご案内させて頂きたいと思っています。午前10時からオープニングセレモニーが始まり、4時頃まで舞台が続きますので、ぜひお越し下さい。

教 育 長：ありがとうございました。

④総合教育会議について

教 育 長：説明をお願いします。

教育総務課長：1月30日午後3時より、総合教育会議がありますので、ご出席宜しくお願いたします。

教 育 長：私どもが今準備しているコミュニティースクールの進捗を町長に報告したいと考えておりますので、その場で委員の皆さんの意見を求められましたら宜しくお願いいたします。ありがとうございました。他にありませんか。それでは、これもちまして、第11回定例教育委員会会議を閉会したいと思います。お疲れ様でした。

8. 会議録の署名人

教 育 長

比嘉季勝  印

教育長職務代理者

奥間千津子  印